ＡＮＡホールディングス株式会社　説明会

2018年3月期　第1四半期 決算説明会

執行役員
グループ経理・財務室長

福澤　一郎

2017年8月2日

©ANAHD2017

1

◎ 本日はお忙しい中、2017年度 第1四半期 決算説明の電話会議にご参加頂きまして、
誠にありがとうございます。

◎ 最初に、スライドの3ページをご覧下さい。

目 次

2017年度 第1四半期 決算

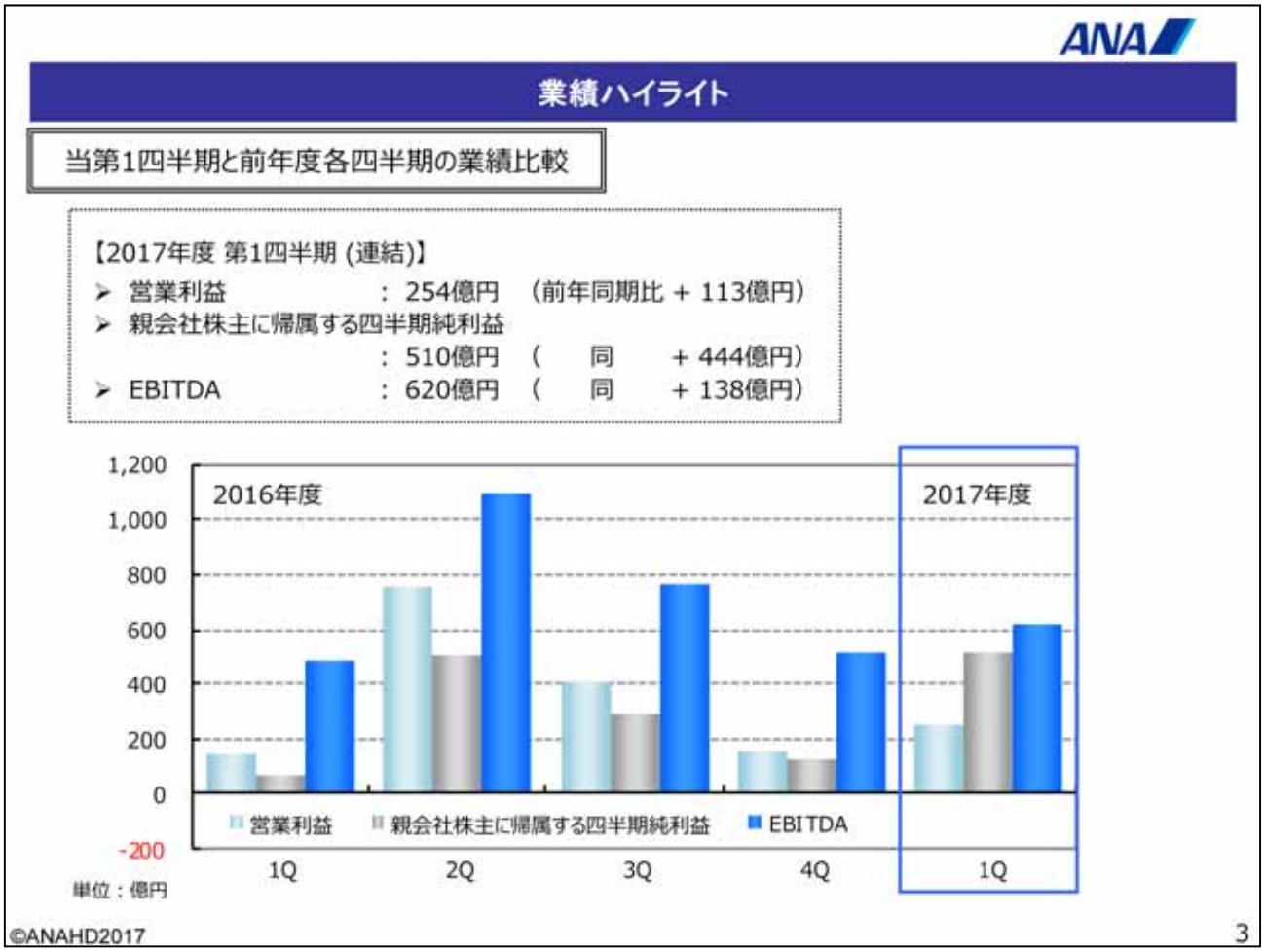
業績ハイライト	P. 3
連結決算概要	
経営成績	P. 4
財政状態	P. 5
キャッシュフロー	P. 6
セグメント別実績	P. 7
航空事業	
収入・費用	P. 9
営業利益増減要因	P. 10
国内旅客事業	P. 11-12
国際旅客事業	P. 13-15
国内貨物事業	P. 17
国際貨物事業	P. 19-21
LCC事業	P. 23-24
航空事業以外のセグメント	P. 25
燃油・為替ヘッジの進捗状況（ANAブランド）	P. 26

補足資料

運用航空機数	P. 28
国際旅客 方面別実績（構成比）	P. 29
国際貨物 方面別実績（構成比）	P. 30

ディスクロージャー
2016年度 優良企業

©ANAHD2017



◎ 業績ハイライトです。

◎ 当第1四半期の営業利益は、前年同期から113億円増加して、254億円となり、
過去最高の水準となりました。

◎ 純利益は、444億円増加して、510億円となりました。
本年4月のPeach Aviationの連結化に伴い、
これまで保有してきた株式の評価を洗い替えたことに因る、
約340億円の特別利益を含んでいます。

◎ EBITDAは、138億円増加して、620億円となりました。

◎ 第1四半期として、順調なスタートを切りました。

◎ 4ページをご覧ください。

連結決算概要

経営成績

単位：億円

	FY2016 第1四半期	FY2017 第1四半期	前年差
売上高	4,044	4,517	+ 472
営業費用	3,902	4,262	+ 359
営業利益	141	254	+ 113
営業利益率（%）	3.5	5.6	+ 2.1
営業外損益	△ 34	△ 6	+ 28
経常利益	106	247	+ 141
特別損益	1	355	+ 354
親会社株主に帰属する四半期純利益	66	510	+ 444
四半期純利益	67	512	+ 445
その他包括利益	△ 168	46	+ 215
包括利益	△ 101	559	+ 660

©ANAHD2017

◎ 経営成績の概要です。

◎ 売上高は、前年同期から472億円、12パーセント増加して、4,517億円となりました。
一方、営業費用は、359億円、9パーセント増加して、4,262億円となりました。

◎ その結果、営業利益は、前年同期比で1.8倍の254億円、
経常利益は、2.3倍の247億円となりました。

◎ 親会社株主に帰属する四半期純利益を含めて、
それぞれ前年水準を大幅に上回る、増収増益決算となりました。

◎ 5ページをご覧ください。

連結決算概要

財政状態

単位：億円

	FY2016 期末	FY2017 第1四半期末	前年度 期末差
総資産	23,144	24,105	+ 961
自己資本	9,191	9,545	+ 353
自己資本比率(%)	39.7	39.6	△ 0.1
有利子負債残高	7,298	7,493	+ 194
D/Eレシオ（倍）*	0.8	0.8	△ 0.0
純有利子負債残高 **	4,110	4,371	+ 260

* オフバランスリース債務額 378億円（前年度期末 461億円）を含むD/Eレシオは0.8倍（前年度期末0.8倍）

** 純有利子負債残高 ＝ 有利子負債残高－（流動資産（現金及び預金＋有価証券））

©ANAHD2017

◎ 財政状態です。

◎ 総資産は、前年度 期末より961億円増加して、2兆4,105億円となりました。
Peach Aviationの連結化に伴い、「のれん」を約580億円計上しました。

◎ 自己資本は、353億円増加して、9,545億円となり、
自己資本比率は、39.6パーセントとなりました。

◎ 有利子負債は、7,493億円となり、
デット・エクイティ・ レシオは、0.8倍となりました。

◎ 6ページをご覧ください。

連結決算概要

キャッシュフロー

単位：億円

	FY2016 第1四半期	FY2017 第1四半期	前年差
営業キャッシュフロー	395	956	+ 561
投資キャッシュフロー	△ 388	△ 1,204	△ 815
財務キャッシュフロー	194	△ 72	△ 266
現金及び現金同等物の増減額	200	△ 323	△ 524
現金及び現金同等物の期首残高	2,651	3,090	△ 323
現金及び現金同等物の期末残高	2,851	2,766	
減価償却費	340	366	+ 25
設備投資額（固定資産のみ）	363	872	+ 509
実質フリーキャッシュフロー（3ヶ月超の定期・譲渡性預金を除く）	109	△ 65	△ 175
EBITDA （営業利益＋減価償却費）	481	620	+ 138
EBITDAマージン(%)	11.9	13.7	+ 1.8

©ANAHD2017

◎ キャッシュフローです。

◎ 営業キャッシュフローは、営業利益の増加に加え、
当四半期における、法人税の支払額が減少したこと等により、
前年同期と比較して、561億円増加の、956億円の収入となりました。

◎ 投資キャッシュフローは、航空機を中心とした設備投資や、
Peach Aviationの株式を追加取得したこと等により、1,204億円の支出となりました。

◎ 財務キャッシュフローは、72億円の支出となりました。

◎ 3ヶ月超の定期・譲渡性預金の資金移動を除いた投資キャッシュフローから算出する、
実質フリーキャッシュフローは、65億円の支出となりました。

◎ 7ページをご覧ください。

連結決算概要

セグメント別実績

単位：億円

		FY2016 第1四半期	FY2017 第1四半期	前年差
売上高	航空事業	3,508	3,968	+ 459
	航空関連事業	613	658	+ 44
	旅行事業	341	363	+ 21
	商社事業	344	335	△ 8
	報告セグメント計	4,807	5,324	+ 517
	その他	83	88	+ 4
	調整額	△ 847	△ 895	△ 48
	合計（連結）	4,044	4,517	+ 472
営業利益	航空事業	126	231	+ 105
	航空関連事業	24	42	+ 17
	旅行事業	6	6	+ 0
	商社事業	10	9	△ 0
	報告セグメント計	167	291	+ 123
	その他	4	5	+ 1
	調整額	△ 30	△ 42	△ 11
	合計（連結）	141	254	+ 113

©ANAHD2017

◎ セグメント別の実績です。

◎ 航空関連事業と旅行事業が増収となった一方、商社事業は減収となりました。

◎ 商社事業において、空港免税店の販売は好調に推移しましたが、
食品部門の売上が、前年を下回りました。

◎ 続きまして、航空事業の詳細についてご説明します。
10ページをご覧ください。

Intentionally Blank

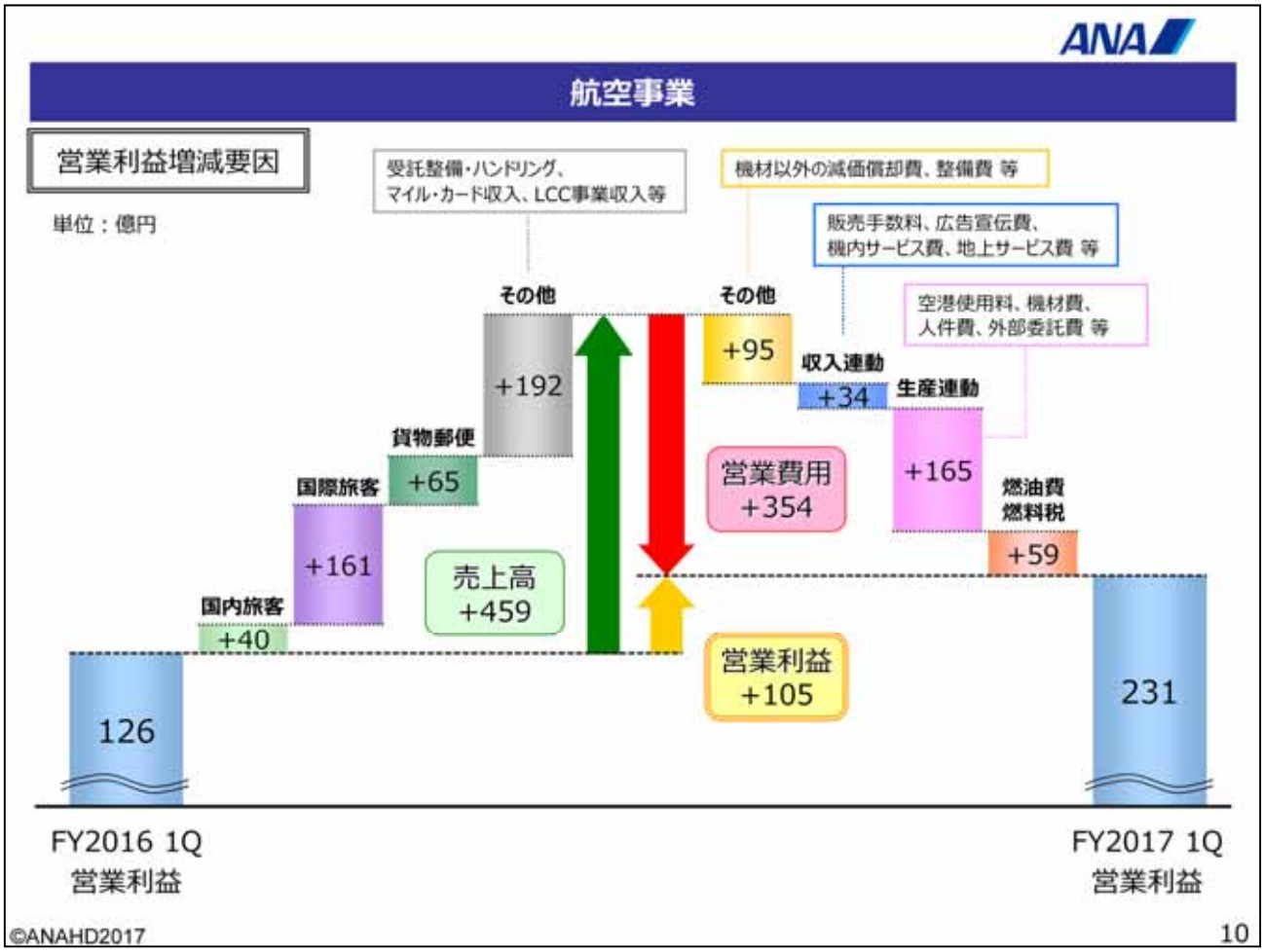
航空事業

収入・費用

単位：億円

		FY2016 第1四半期	FY2017 第1四半期	前年差
売上高	国内線旅客	1,505	1,546	+ 40
	国際線旅客	1,233	1,394	+ 161
	貨物郵便	297	362	+ 65
	その他	472	664	+ 192
	合計	3,508	3,968	+ 459
営業費用	燃油費・燃料税	668	727	+ 59
	空港使用料	278	301	+ 23
	航空機材賃借費	250	275	+ 25
	減価償却費	324	350	+ 26
	整備部品・外注費	246	327	+ 81
	人件費	451	487	+ 36
	販売費	230	244	+ 14
	外部委託費	487	541	+ 54
	その他	446	479	+ 33
	合計	3,382	3,736	+ 354
営業利益	営業利益	126	231	+ 105
	EBITDA （営業利益＋減価償却費）	450	582	+ 132
	EBITDAマージン	12.8	14.7	+ 1.8

©ANAHD2017



◎ 航空事業における営業利益の、前年同期比較です。

◎ 売上高は、459億円の増加となりました。
国内旅客、国際旅客、貨物郵便、いずれの事業も増収となった他、
その他収入に含まれるLCC事業として、
Peach Aviationの収入も、売上高の増加に貢献しました。

◎ 営業費用は、354億円の増加となりました。
事業規模の拡大により、生産連動、並びに収入連動の費用が増加した他、
年度当初の業績予想でお示しした通り、整備費等が増加しました。

◎ 以上の結果、営業利益は、前年同期から105億円増加して、231億円となりました。

◎ 12ページをご覧ください。

航空事業

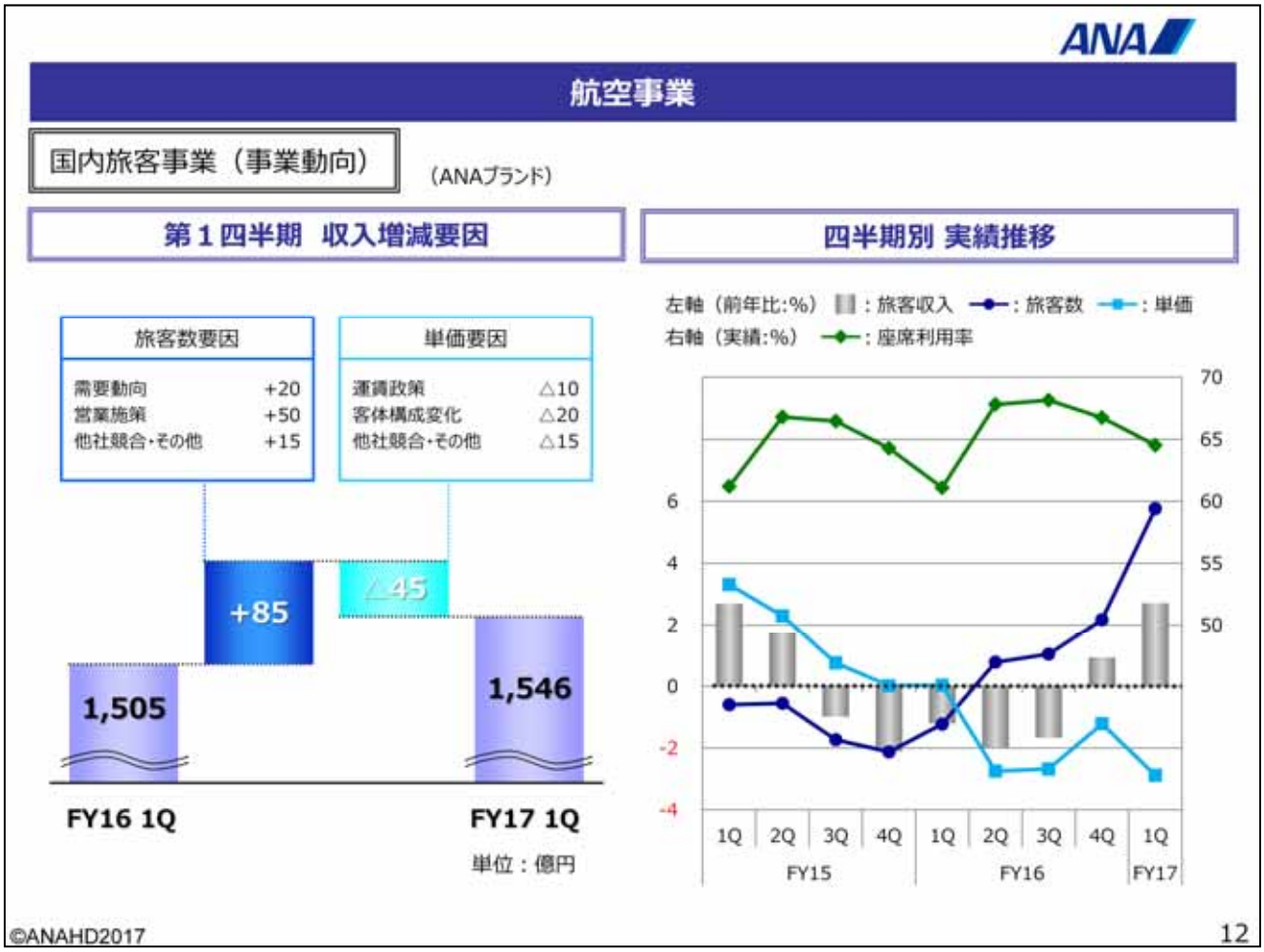
国内旅客事業（実績）

（ANAブランド）

	FY2016 第1四半期	FY2017 第1四半期	前年比(%)
座席キロ（百万）	14,393	14,410	+ 0.1
旅客キロ（百万）	8,792	9,296	+ 5.7
旅客数（千人）	9,789	10,353	+ 5.8
座席利用率（%）	61.1	64.5	+ 3.4*
旅客収入（億円）	1,505	1,546	+ 2.7
ユニットレベニュー（円）（旅客収入／座席キロ）	10.5	10.7	+ 2.6
イールド（円）（旅客収入／旅客キロ）	17.1	16.6	△ 2.9
単価（円）（旅客収入／旅客数）	15,378	14,934	△ 2.9

* 座席利用率のみ前年差

©ANAHD2017



◎ 国内旅客の状況です。

◎ 昨年の第1四半期は、熊本地震の影響として、レジャー需要の減退に直面しましたが、
今年度は、総じて需要が堅調に推移しました。

◎ 左の図は、第1四半期の増収額、40億円の要因分析です。

◎ 旅客数要因では、九州方面へのレジャー需要が回復したことに加え、
低需要便への対策として、プロモーション運賃を積極的に展開したこと等により、
85億円の増収となりました。

◎ 一方、単価要因では、客体構成の変化等により、45億円の減収となりました。

◎ 右の図では、四半期別の実績推移をお示ししています。
2014年度以降、生産量の抑制に方針を転換し、需給適合を進めてきた結果、
当第1四半期の座席利用率は64.5パーセントまで向上しました。

◎ 14ページをご覧ください。

航空事業

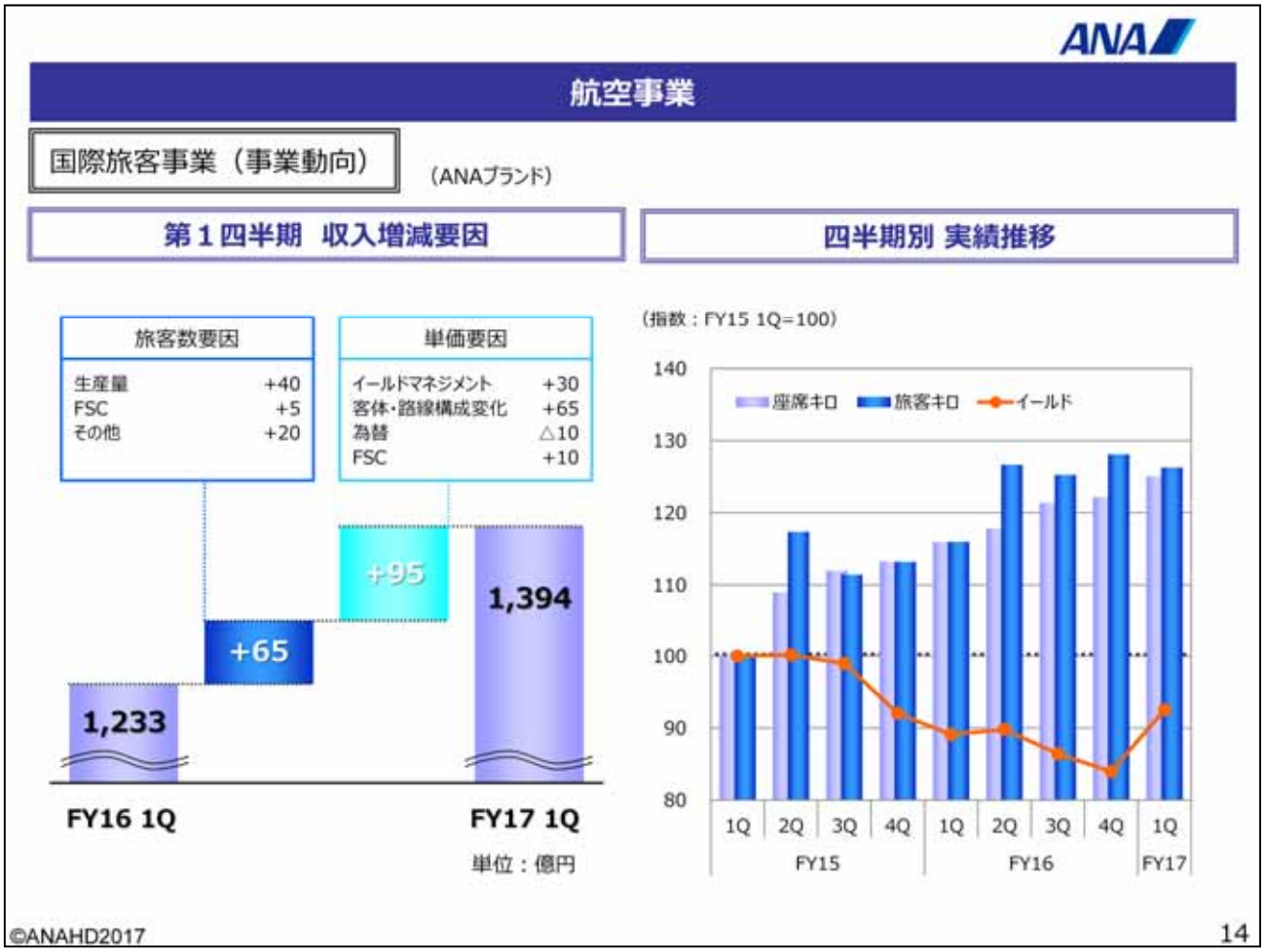
国際旅客事業（実績）

（ANAブランド）

	FY2016 第1四半期	FY2017 第1四半期	前年比(%)
座席キロ（百万）	14,612	15,759	+ 7.8
旅客キロ（百万）	10,663	11,608	+ 8.9
旅客数（千人）	2,131	2,246	+ 5.4
座席利用率（%）	73.0	73.7	+ 0.7*
旅客収入（億円）	1,233	1,394	+ 13.1
ユニットレベニュー（円）（旅客収入／座席キロ）	8.4	8.9	+ 4.8
イールド（円）（旅客収入／旅客キロ）	11.6	12.0	+ 3.9
単価（円）（旅客収入／旅客数）	57,868	62,073	+ 7.3

* 座席利用率のみ前年差

©ANAHD2017



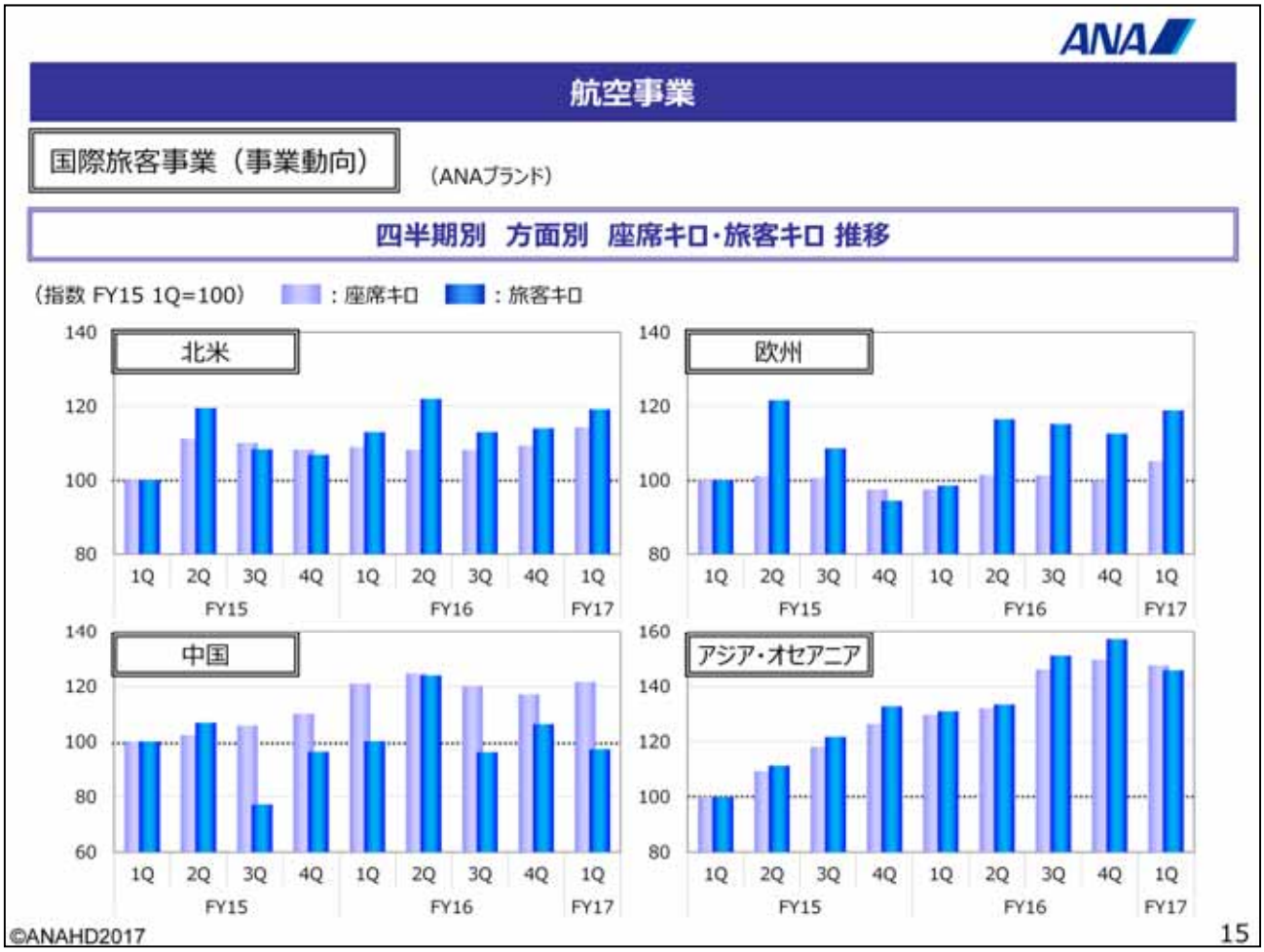
◎ 国際旅客の状況です。

◎ 左の図をご覧ください。
第1四半期の増収額、161億円の要因分析です。

◎ 旅客数要因では、生産量の拡大に合わせて、着実に需要を取り込んだことで、
65億円の増収となりました。

◎ 単価要因では、堅調な需要動向を背景に、イールドマネジメントを徹底したこと、
並びに、客体・路線構成が変化したことにより、95億円の増収となりました。

◎ 続いて、15ページをご覧ください。



◎ 方面別の供給と需要の推移です。

◎ 北米方面、欧州方面、アジア・オセアニア方面は、総じて順調な実績となりました。
これらの方面では、業務渡航を中心とした日本発需要に加え、海外発需要についても、
前年を上回る取り込みを実現しました。

◎ 欧州方面については、前年同期においてテロの影響を受けていましたが、
日本発の旅行需要が回復したこともあり、旅客キロが大幅に増加しました。

◎ 中国方面では、足元の動向として、日中間における市場全体の供給量が高止まりする中で、
訪日需要の増加ペースが緩やかになっています。
需給ギャップの拡大による影響が続いたことで、第1四半期の旅客キロは前年を若干下回りました。

◎ 21ページをご覧ください。

Intentionally Blank

航空事業

国内貨物事業（実績）

	FY2016 第1四半期	FY2017 第1四半期	前年比(%)
有効貨物トンキロ（百万）	424	425	+ 0.2
有償貨物トンキロ（百万）	105	104	△ 0.6
貨物輸送重量 （千トン）	103	101	△ 1.9
貨物重量利用率（%）	24.9	24.7	△ 0.2*
貨物収入（億円）	71	72	+ 0.9
ユニットレベニュー（円）（貨物収入／有効貨物トンキロ）	16.9	17.0	+ 0.7
イールド（円）（貨物収入／有償貨物トンキロ）	67.8	68.8	+ 1.5
重量単価（円/kg）（貨物収入／貨物輸送重量）	69	71	+ 2.9

* 貨物重量利用率のみ前年差

©ANAHD2017

Intentionally Blank

航空事業

国際貨物事業（実績）

	FY2016 第1四半期	FY2017 第1四半期	前年比(%)
有効貨物トンキロ（百万）	1,612	1,674	+ 3.8
有償貨物トンキロ（百万）	980	1,098	+ 12.0
貨物輸送重量 （千トン）	221	243	+ 10.2
貨物重量利用率（%）	60.8	65.6	+ 4.8*
貨物収入（億円）	204	268	+ 31.3
ユニットレベニュー（円）（貨物収入／有効貨物トンキロ）	12.7	16.1	+ 26.5
イールド（円）（貨物収入／有償貨物トンキロ）	20.9	24.5	+ 17.2
重量単価（円/kg）（貨物収入／貨物輸送重量）	93	110	+ 19.2

* 貨物重量利用率のみ前年差

©ANAHD2017

航空事業

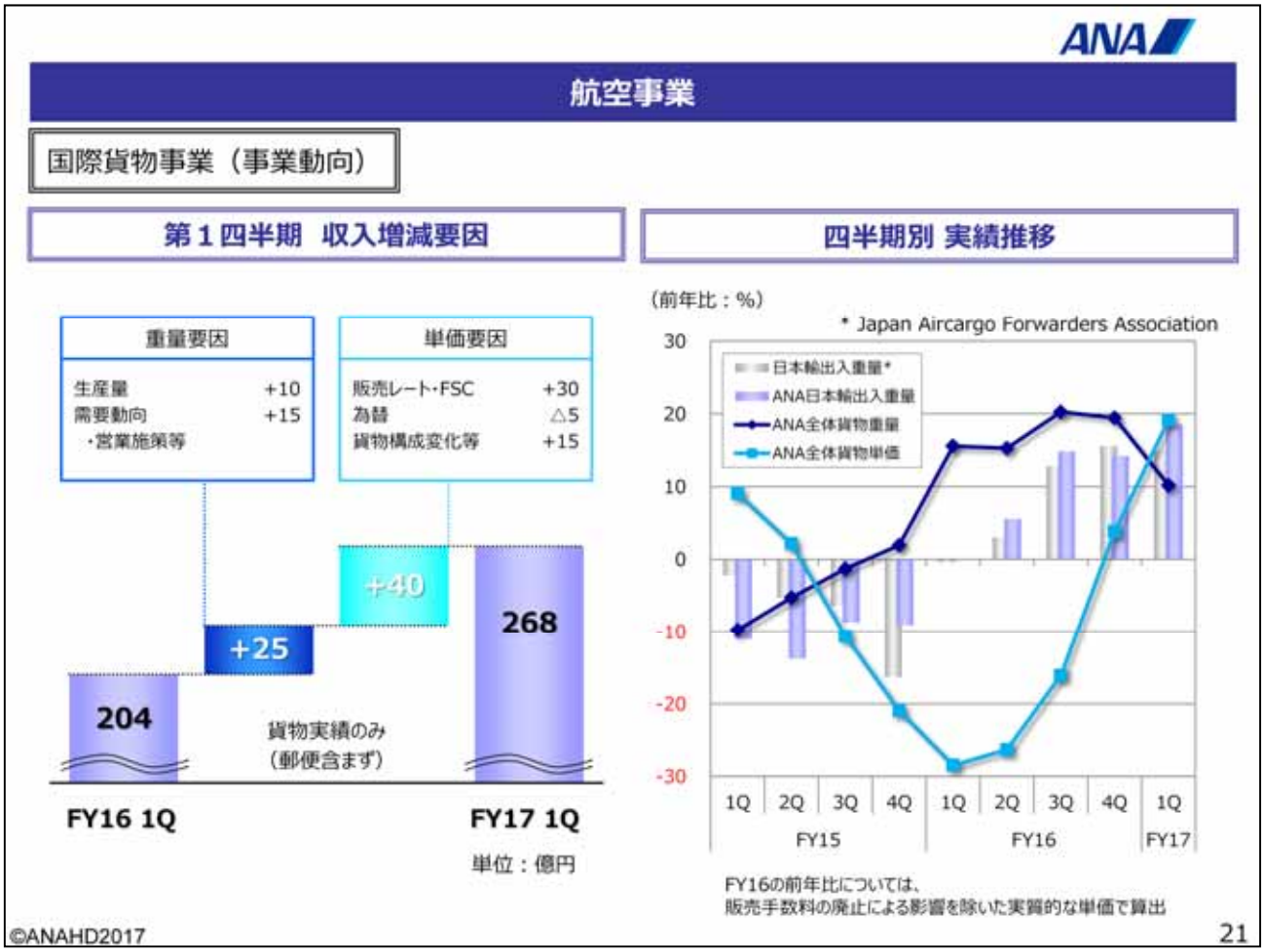
【参考】国際フレイター（実績）

本表のデータは、P19記載実績の内数

	FY2016 第1四半期	FY2017 第1四半期	前年比(%)
有効貨物トンキロ（百万）	305	266	△ 12.8
有償貨物トンキロ（百万）	176	168	△ 4.4
貨物輸送重量 （千トン）	90	90	+ 0.7
貨物重量利用率（%）	57.7	63.2	+ 5.5*
貨物収入（億円）	69	66	△ 3.8
ユニットレベニュー（円）（貨物収入／有効貨物トンキロ）	22.7	25.0	+ 10.3
イールド（円）（貨物収入／有償貨物トンキロ）	39.3	39.6	+ 0.7
重量単価（円/kg）（貨物収入／貨物輸送重量）	77	73	△ 4.4

* 貨物重量利用率のみ前年差

©ANAHD2017



◎ 国際貨物の状況です。

◎ 左の図をご覧ください。第1四半期の増収額、64億円の要因分析です。

◎ 重量要因では、日本発着の輸出入貨物や、中国発北米向け三国間貨物等の取り込みが奏功した結果、25億円の増収となりました。

◎ 単価要因でも、堅調な需要動向を、販売レートの向上につなげたこと等により、40億円の増収となりました。

◎ 右の図は、輸出入貨物の総需要と、当社グループ実績の推移です。
総需要の回復が後押しとなり、当社グループの販売状況は大きく改善してきました。

◎ 引き続き、フレイターネットワークの見直しを中心に、生産量の最適化を進めながら、需要を効率的に取り込んでいきます。

◎ 23ページをご覧ください。

Intentionally Blank

航空事業

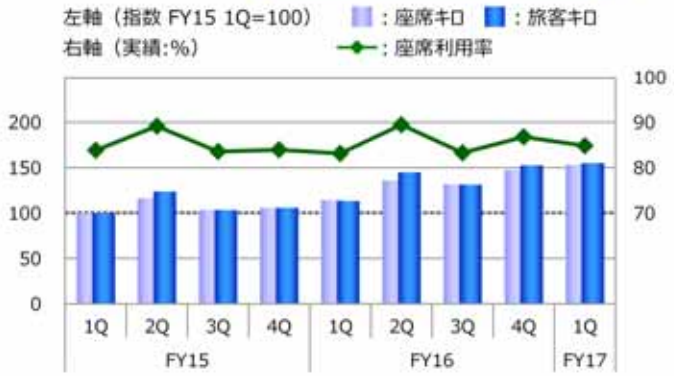
LCC事業（バニラエア）

（国内線・国際線合計）

	FY2016 第1四半期	FY2017 第1四半期	前年比(%)
座席キロ（百万）	911	1,221	+ 34.0
旅客キロ（百万）	757	1,035	+ 36.7
旅客数（千人）	446	651	+ 45.9
座席利用率（%）	83.1	84.8	+ 1.7*

* 座席利用率のみ前年差

運用航空機数
エアバスA320-200型機： 12機 （2017年6月末 現在）



©ANAHD2017

◎ LCC事業の実績として、本ページにバニラエアの状況を、
24ページにPeach Aviationの状況を、それぞれお示ししています。

◎ LCC会社間の競争は厳しさを増していますが、第1四半期の座席利用率は、
両社ともに85パーセント前後となり、高い水準を確保しました。
需要を安定的に取り込みながら、イールドマネジメントによる収入の最大化を追求しています。

◎ なお、24ページの下段に記載の通り、Peach Aviationは、
9月下旬より、仙台、及び札幌から、新たに4つの路線に就航する計画です。

◎ 続きまして、26ページをご覧ください。

航空事業

LCC事業（Peach Aviation）

（国内線・国際線合計）

	FY2017 第1四半期
座席キロ（百万）	1,611
旅客キロ（百万）	1,382
旅客数（千人）	1,186
座席利用率（%）	85.8

運用航空機数
エアバスA320-200型機： 19機 （2017年6月末 現在）

【新規就航路線（第2四半期）】

- ✈ 仙台 – 札幌 (新千歳)
- ✈ 札幌 (新千歳) – 福岡
- ✈ 札幌 (新千歳) – 台北 (桃園)

9/24 就航予定

- ✈ 仙台 – 台北 (桃園)

9/25 就航予定

©ANAHD2017

航空事業以外のセグメント

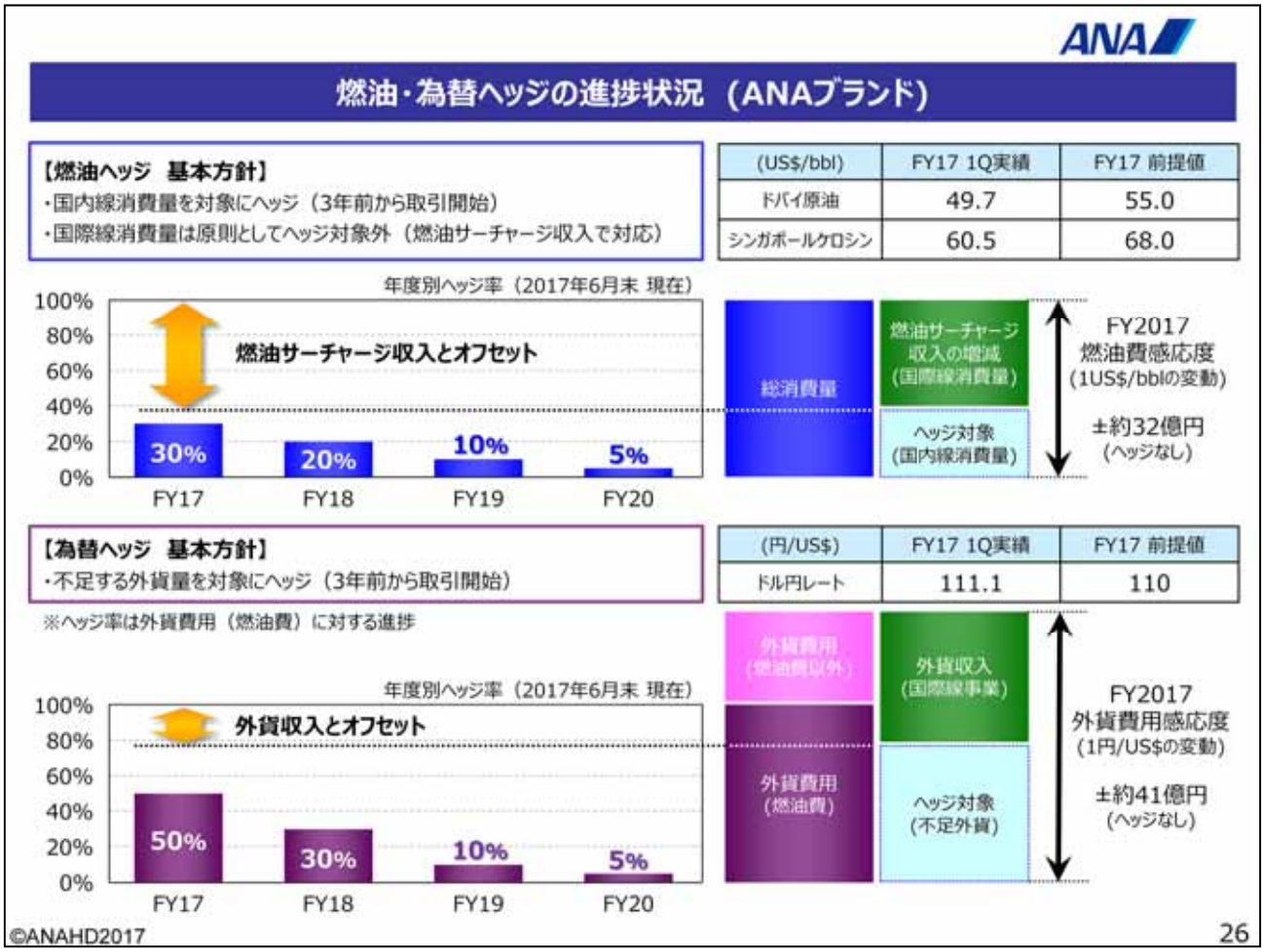
セグメント別実績

単位：億円

	航空関連事業			旅行事業		
	FY2016 第1四半期	FY2017 第1四半期	前年差	FY2016 第1四半期	FY2017 第1四半期	前年差
売上高	613	658	+ 44	341	363	+ 21
営業利益	24	42	+ 17	6	6	+ 0
減価償却費	13	11	△ 1	0	0	+ 0
EBITDA (営業利益+減価償却費)	37	54	+ 16	6	7	+ 1
EBITDAマージン(%)	6.2	8.2	+ 2.1	1.9	2.1	+ 0.2

	商社事業			その他		
	FY2016 第1四半期	FY2017 第1四半期	前年差	FY2016 第1四半期	FY2017 第1四半期	前年差
売上高	344	335	△ 8	83	88	+ 4
営業利益	10	9	△ 0	4	5	+ 1
減価償却費	2	3	+ 0	0	0	+ 0
EBITDA (営業利益+減価償却費)	13	12	△ 0	4	6	+ 1
EBITDAマージン(%)	3.9	3.8	△ 0.1	5.6	7.2	+ 1.6

©ANAHD2017



◎ 本ページには、燃油と為替のヘッジ状況をお示ししていますので、ご参照ください。

◎ 最後に、今回の決算のポイントを、まとめさせて頂きます。

◎ まずは、トップラインの伸長です。
国際旅客事業の力強い牽引に加えて、
国内旅客事業も、リーマンショック以降で最高の売上高となりました。
国際貨物事業も、需給環境の好転により、大きく収入を伸ばした他、
新たに連結化したPeach Aviationも、増収に貢献しました。

◎ 次に、コストマネジメントです。
今年度は「安全と品質サービスの総点検」により、整備費や人件費が増加する計画です。
第1四半期においては、費用全体を着実にコントロールすることで、
売上高の拡大を、過去最高の営業利益に結びつけました。

◎ 私からの説明は以上です。ご清聴ありがとうございました。

補足資料

©ANAHD2017

補足資料

運用航空機数

		FY2016 期末	FY2017 第1四半期末	前年度 期末差	保有機数	リース機数
ANA	Boeing 777-300/-300ER	29	29	–	24	5
	Boeing 777-200/-200ER	24	23	△ 1	16	7
	Boeing 787-9	21	23	+ 2	22	1
	Boeing 787-8	36	36	–	31	5
	Boeing 767-300/-300ER	37	37	–	26	11
	Boeing 767-300F/-300BCF	12	12	–	8	4
	Airbus A321-200	4	4	–	–	4
	Airbus A320-200neo	2	2	–	2	–
	Airbus A320-200	10	8	△ 2	8	–
	Boeing 737-800	36	36	–	24	12
	Boeing 737-700	7	7	–	7	–
	Boeing 737-500	17	16	△ 1	16	–
	Bombardier DHC-8-400	21	21	–	21	–
	ANA 計	**256**	**254**	**△ 2**	**205**	**49**
Vanilla Air	Airbus A320-200	12	12	–	–	12
peach	Airbus A320-200	–	19	+ 19	–	19
	ANAグループ 計	**268**	**285**	**+ 17**	**205**	**80**

28

補足資料

国際旅客 方面別実績（構成比）

（ANAブランド）

		FY2017 第1四半期 構成比	前年差
旅客収入	北米	32.1	△ 0.4
	欧州	20.5	+ 1.6
	中国	12.4	△ 1.5
	アジア・オセアニア	30.6	+ 0.1
	リゾート	4.5	+ 0.1
座席キロ	北米	32.8	△ 0.9
	欧州	16.1	△ 0.0
	中国	11.1	△ 0.8
	アジア・オセアニア	35.0	+ 1.8
	リゾート	4.9	△ 0.1
旅客キロ	北米	33.5	△ 1.1
	欧州	17.3	+ 1.7
	中国	8.8	△ 1.1
	アジア・オセアニア	35.0	+ 0.8
	リゾート	5.5	△ 0.3

©ANAHD2017

補足資料

国際貨物 方面別実績（構成比）

		FY2017 第1四半期 構成比	前年差
貨物収入	北米	31.6	+ 8.9
	欧州	16.2	+ 2.0
	中国	24.4	△ 9.7
	アジア・オセアニア	23.3	△ 0.4
	その他	4.5	△ 0.7
有効貨物トンキロ	北米	37.2	+ 0.4
	欧州	16.1	△ 0.1
	中国	16.3	△ 0.2
	アジア・オセアニア	27.7	+ 1.0
	その他	2.7	△ 1.0
有償貨物トンキロ	北米	38.0	+ 0.1
	欧州	20.5	△ 0.5
	中国	13.9	+ 0.6
	アジア・オセアニア	24.8	+ 0.3
	その他	2.8	△ 0.6

©ANAHD2017

ANAグループが目指すもの

グループ経営理念

安心と信頼を基礎に

世界をつなぐ心の翼で

夢にあふれる未来に貢献します

グループ安全理念

安全は経営の基盤であり社会への責務である

私たちはお互いの理解と信頼のもと
確かなしくみで安全を高めていきます

私たちは一人ひとりの責任ある
誠実な行動により安全を追求します

グループ経営ビジョン

ANAグループは、

お客様満足と価値創造で

世界のリーディングエアライングループを目指します

©ANAHD2017

免責事項

当資料には、弊社の現在の計画、見積り、戦略、確信に基づく見通しについての記述がありますが、歴史的な事実でないものは、全て将来の業績に関わる見通しです。これらは現在入手可能な情報から得られた弊社の判断及び仮説に基づいています。

弊社グループの主要事業である航空事業には、空港使用料、航空機燃料税等、弊社の経営努力では管理不可能な公的負担コストが伴います。また、弊社が事業活動を行っている市場は状況変化が激しく、技術、需要、価格、経済環境の動向、外国為替レートの変動、その他多くの要因により急激な変化が発生する可能性があります。これらのリスクと不確実性のために、将来における弊社の業績は当資料に記述された内容と大きく異なる可能性があります。従って、弊社が設定した目標は、全て実現することを保証するものではありません。

ご清聴ありがとうございました。

当資料はホームページでもご覧いただけます。
http://www.ana.co.jp/group/investors

［日本語］　株主・投資家情報 → ＩＲ資料室 → 決算説明会資料

ＡＮＡホールディングス㈱　グループ経理・財務室　財務企画・ＩＲ部
Eメール　：　ir@anahd.co.jp